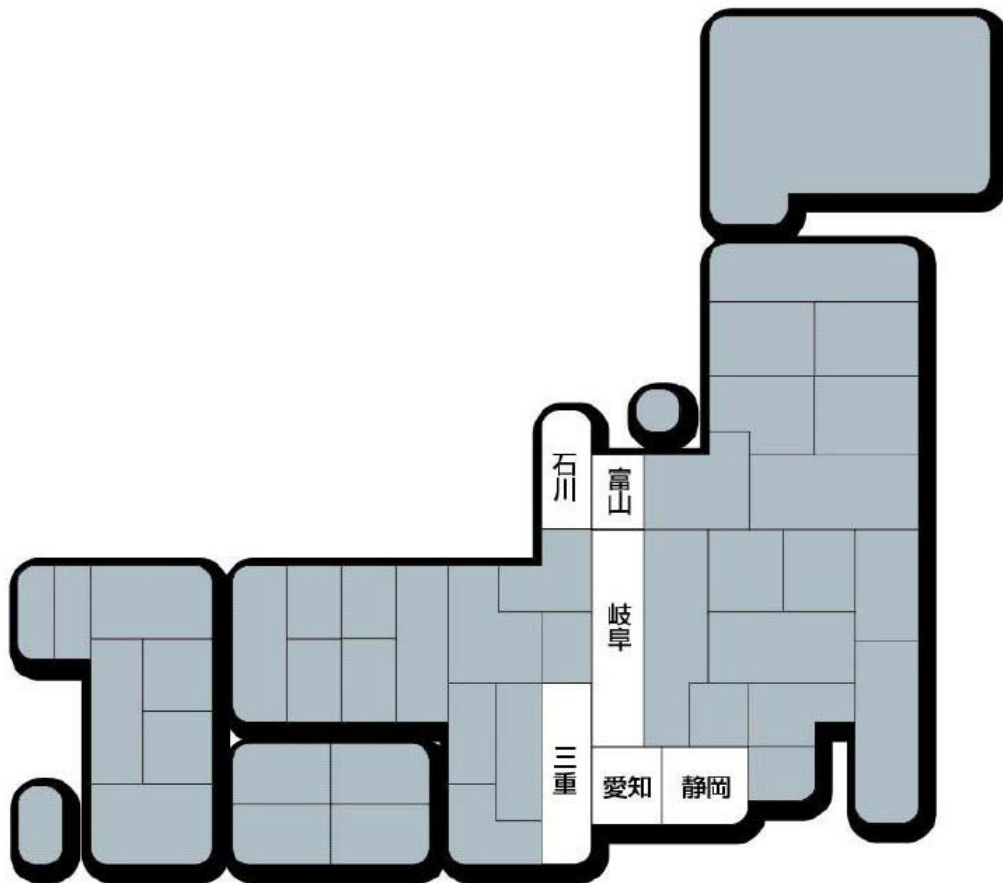


東海北陸国立病院薬剤師会 会誌



THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.30

2023.10

目次

【会長挨拶】			
静岡医療センター	竹内 正紀	1
【施設紹介】			
三重病院	平松 匡邦	2
【委員会報告】			
○教育研修委員会			
名古屋医療センター	平島 学	4
○業務推進委員会			
名古屋医療センター	安藤 舞	15
○学術研究委員会			
三重病院	山本 高範	18
【編集後記】		21

会長あいさつ

東海北陸地区国立病院薬剤師会

会長 竹内 正紀

このたび、東海北陸地区国立病院薬剤師会総会において会長に選出されました静岡医療センターの竹内正紀です。微力ではありますが、会員の皆様のご支援を頂きながら会長の職責を果たせるよう努力して参りますので、よろしくお願い致します。

本会は独立行政法人国立病院機構の東海北陸グループ管内 18 施設および国立長寿医療研究センター、国立駿河療養所に勤務する薬剤師により構成されています。

主な活動として研修を兼ねた総会を年 1 回開催し、教育研修・学術研究・業務推進の各委員会の活動とともに新採用薬剤師研修、臨床研究研修、MBTI® (Myers-Briggs Type Indicator) 研修等を開催し、切磋琢磨を続けております。

令和へと時代が代わり、会員の皆様の負担を軽減するため総会を 1 泊 2 日から 1 日開催とし、研究発表会は別の日に行っております。さらに継続的な運営のため、本会の方向性や考え方について「総会あり方検討会 WG」で話し合いを続けています。理事会執行部や幹事施設の負担を少なくし、できるだけ多くの方が参加できるよう、リモート形式を取り入れ、サテライト会場を各ブロックに開設することを試みています。

国立病院機構は国内最大級の医療ネットワークであり、そのネットワークを活かした上で皆様方の総力を結集して、東海北陸地区国立病院薬剤師会の財産ともいえる本会を盛り上げて行きたいと思っております。病院薬剤師の希望者が減っていることが問題になっており、当面は新人、若手の教育育成、離職防止が組織の最重要課題と考えています。魅力ある活動を通じて目的を共有し、全体のスキルアップにつなげていきましょう。

今後とも本会の活動に一層のご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

【施設紹介】 三重病院

薬剤科長 平松 匡邦

「三重病院」は津市の北部方面、JR・近鉄津駅から亀山市方面へ約6km離れた郊外に位置しています。県道10号線と県道410号線に挟まれた丘陵地で敷地は広く両線からアクセス可能となっています。最寄り駅は紀勢本線の一身田駅となりますが3kmほど離れているため、主要駅からの路線バスが主な公共交通機関となります。



現在の診療科は小児科、小児外科、小児心療科、アレルギー科、内科（内分泌、呼吸器）、脳神経内科、整形外科、耳鼻いんこう科、口腔外科、眼科です。外来では予防接種センターとして乳幼児の定期予防接種や海外渡航者の予防接種を行っています。病床に重症心身障害者50床を備えており、重症心身障害児・者の通所支援事業として日中活動サービスも行っております。

新たな経皮免疫療法研究のためのクラウドファンディングでも注目を集めたアレルギー科も他施設では珍しいかも知れません。食物経口負荷試験の日帰り入院やスキンケア入院、皮下免疫療法が日常的に行われています。

三重病院は日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）の会員施設であり小児医療がメインとなっています。JACHRIとは”小児総合医療施設の医療、研究、教育及び社会活動を支援し、国際的水準の小児医療の確保、普及に努めるとともに、現在及び未来のこどもとその家族の心身の健康水準の向上”を目的とした社団法人で、NHQでは3施設が会員となっています。外来受付の天井のデザインが青空なのもこのような小児医療を意識したものではないでしょうか。



広大な敷地の一部は「三重県立子ども心身発達医療センター」となっており隣接した「三重県立かがやき特別支援学校」とともに県内の様々な障害を持った子どもに対する発達支援の総合的な療育支援体制が構築されています。整形外科や心療科で長期入院している子ども達も病院から特別支援学校に通学しています。

薬剤科は薬剤科長、副薬剤科長、調剤主任、治験主任、科員1名の5名が本来準備されている人員枠ですが、調べたところ近年10年はその構成であったことはなかったようです。令和5年度は長、副に主任2名（1名長期休暇）、科員2名（1名治験担当）、助手1名が勤務しており、さらに年末には非常勤薬剤師1名が加わる予定となっております。

業務は入院調剤、注射払出、定期処方調剤、外来調剤がメインとなります。いわゆる門前薬局はありませんが、院外処方箋の発行率が高く院内処方も多くありません。ボリュームが多い重心病棟の定期処方2週間分調剤が各種業務日程スケジュールの基本となります。



当直・宿直業務はなく時間外は当直医師、当直看護師長での対応となります。ただ平日は定時を過ぎた外来の終了連絡まで待機し、土日・休日は10時から12時までの2時間、当番1名での勤務対応を行っています。

教育研修委員会の活動報告(令和5年10月)

教育研修委員長

平島 学

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、3年あまり続いた新型コロナは季節性インフルエンザと同様の取り扱いとなりました。いよいよウィズコロナからポストコロナの時代が到来します。ポストコロナとは新型コロナ禍におけるさまざまな経験を受けて、従来の延長ではない生活様式や働き方、価値観などが変化した状況、世界観を表す意味だそうです。教育研修委員会の研修運営においても、ポストコロナを念頭において柔軟で有意義なものとなるよう検討していきたいと考えております。

さて早速その一環として、令和5年度研修会に関して、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間完全Web化していた採用薬剤師研修会を、名古屋医療センターと金沢医療センターをWeb会議システムで接続したサテライト形式に変更して開催しました。サテライト開催ではありますが、久しぶりに顔を合わせて行う研修はやはりWeb研修にはない良いものがあり、アンケートからも受講生にも満足いただける内容で、横のつながりの構築に大変有意義な研修となりました。

NHO-PADに関しては、昨年同様NHO-PADを用いた評価を実施しました。7月に令和4年度入職者の3回目と令和5年度入職者の1回目の自己評価、他者評価を行っていただきました。評価結果は、別途お送りしますので、今後の指導・教育にご活用ください。

また、業務推進委員会と教育研修委員会、合同の新たな取り組みとして、昨年度10月に名古屋医療センター、1月に金沢医療センターで開催しましたMBTI研修会の受講前、受講から3か月後、6か月後のアンケートの集計が完了しました。薬剤師対象に実施したMBTI研修会の有用性と今後の課題がみえてきましたのでご報告します。

今回は、サテライト開催の採用薬剤師研修会の様子とMBTI研修会のアンケート結果についてご紹介したいと思います。

◆ 令和5年度採用薬剤師研修会

開催日：令和5年7月8日(土)

開催方法：サテライト会場 名古屋医療センター 金沢医療センター

受講生：令和4年度新採用者 1名、令和5年度新採用者 6名

新型コロナウイルス感染症の拡大により集合研修の開催が困難となり、令和3年度よりZoomを用いたオンライン研修としておりましたが、今年度は名古屋医療センターと金沢医療センターをサテライト会場とする集合研修として開催しました。集合研修・オンライン研修にはそれぞれの開催形式ならではのメリット・デメリットがありますが、サテライト開催とすることで両者のいいところ取りで実施することができました。

教育研修委員会としてサテライト研修会の開催は初めてでしたが、2年間のオンライン研修の運営を経験してきたことで、準備から当日の運営に至るまでスムーズに対応することができていました。当日は、開始前に会場をつなぐためのオンライン用のマイク接続にトラブルがありましたが、それ以降は大きなトラブルもなく無事に実施することができました。

サテライト研修のデメリットとしては、集合研修と同様、遠方から参加いただく受講生やタスクの負担の増加が考えられました。みやまキャンプ場での開催であれば一泊二日の開催としていたため、1日目昼集合、2日目昼解散で1日の研修時間の確保が可能でしたが、今回は昼集合で半日研修を完結させることが必要でした。また、サテライト会場間でのアイスブレイクという初の試みもあり、事前の検討に非常に時間を要しました。タスク間で綿密に話し合った結果、従前より使用していた研修会実施計画書のシナリオを大幅に改訂し、横のつながりを重視した構成、シナリオの変更、SGDの内容の厳選、市長動画の作成などの時間短縮の工夫をすることで半日研修化を実現することができました。

集合研修は準備する方も受講する方も大変で不便なところがありますが、受講生とタスクが顔を合わせて研修をすることで、笑顔も非常に多くみられ、THPには仲間がいること、その繋がりの大切さや貴重さを感じ取っていただくことができたと思います。

受講生全体写真



名古屋医療センター



金沢医療センター

アイスブレイク 2拠点をつないだ自己紹介とワードウルフ風景



セッション 1 問題抽出 SGD 風景



名古屋医療センター



金沢医療センター

セッション 1 発表風景



セッション 2 指導計画 動画視聴(悪い指導例、良い指導例)風景



悪い指導例

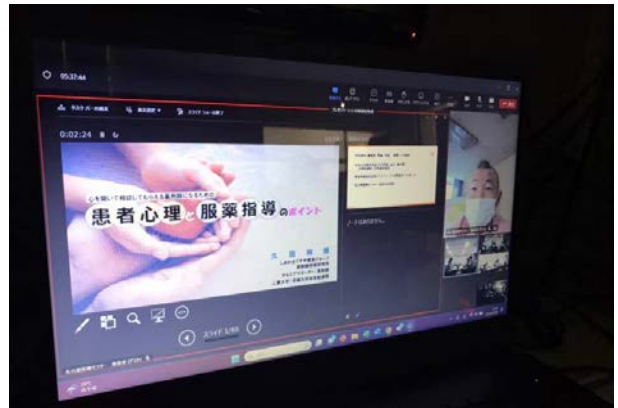


良い指導例

講義 コミュニケーション 久田先生 風景



名古屋医療センター



金沢医療センター

受講中の受講生

名古屋医療センター

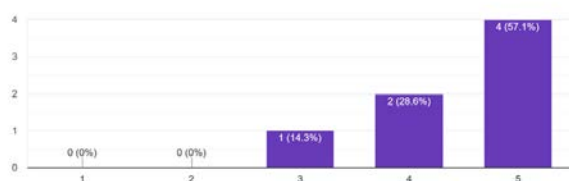


金沢医療センター

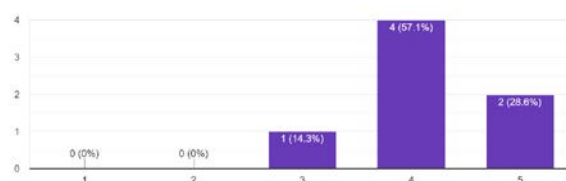


アンケート結果

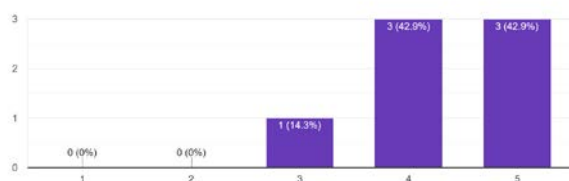
1. ワークショップの流れにスムーズに入り込みましたか？
7件の回答



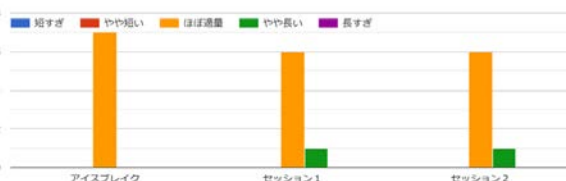
2. あなたは討議にどの程度参加しましたか？
7件の回答



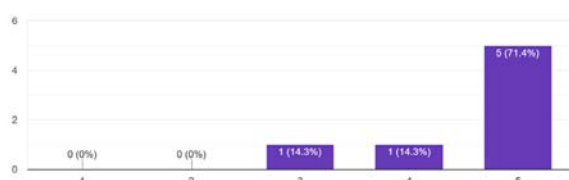
3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか？
7件の回答



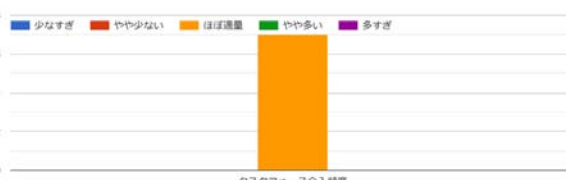
4. 内容に対する時間量は、いかがでしたか？



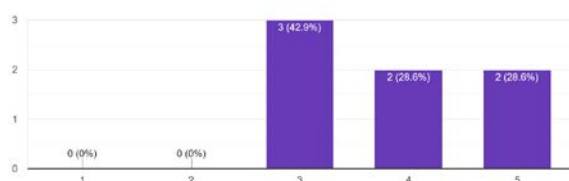
5. コミュニケーションスキルについての講義は、役に立ちましたか？
7件の回答



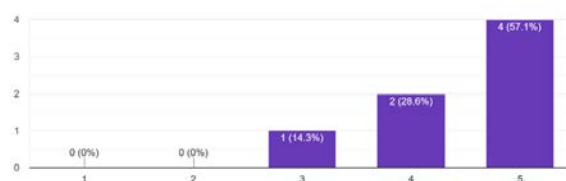
6. グループ作業中、タスクフォースが介入した頻度については、いかがでしたか？



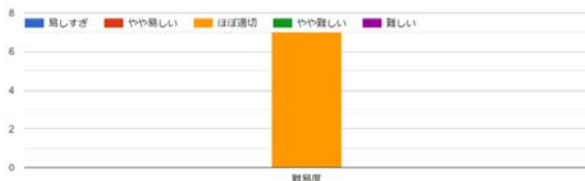
7. タスクフォースは、グループ作業進行のサポートになりましたか？
7件の回答



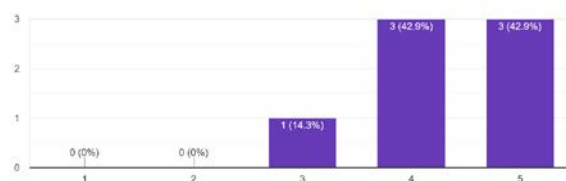
8. 内容の価値についていかがでしたか？
7件の回答



9. 内容の難易度はいかがでしたか？



10. 今後ともこの様な研修会を行うことをどう思われますか？
7件の回答



11. 今回の研修会全体にわたり、良かったこと

- ・新人の人数が少なかったが、タスクフォースの先生方が多く見えていたので流れを作ってもらうことができたので良かった。
- ・アイスブレイクがあったりと楽しく研修できたこと。実際のがんの患者さんがどのような想いで今に至っているのかを聞くことができたこと。
- ・アイスブレイクを開催していただいたことで、少し緊張がほぐれました。

- ・自分と同じ新人の人たちと話し合いながら進められたところ
- ・同期や他の施設の先生方と直接関わることができたこと。
- ・他の施設の人と話せたこと
- ・他施設の先生方とお会いできたことが非常によかったです。とても気さくな方ばかりであり緊張せず、研修に取り組みました。有難うございました。

12. 今回の研修会全体にわたり、良くなかったこと

- ・セッションの話し合いの時間が少し長く感じた。
- ・お昼ご飯の時間が短いこと。
- ・まだまだ難しいとは思いますが、同期全員で一緒に集まりたかったです。
- ・サテライト開催であったため、全員と直接話すことが出来なかったところ
- ・今回の研修会の内容であれば半日で行えるのではないかと思った。
- ・悪い指導例が極端であった
- ・私が食べるのが遅いため、昼食の量を調節できれば有難いです。

13. 名古屋ー金沢の2会場を Web で繋いだ研修会開催形式について

- ・それぞれ直接話げできた新人同士は仲良くなれたと思うが、離れていた方の新人の先生とはあまり話せなくて残念だった。
- ・違う施設の先生方との関りを持つのが難しかった。
- ・全員ではありませんが、同期と直接顔を合わせることができて嬉しかったです。
- ・オンライン開催より話し合いがしやすく感じた
- ・特に通信障害などもなくスムーズに研修が行えたので Web で繋ぐ研修会でも良かったが、できれば全員が同じ会場で会うほうがより交流を深められるのではないかと思った。
- ・よかった
- ・サテライト形式でしたが、アイスブレイクを第一歩として、金沢の先生とも名古屋の先生とも会話をしながら楽しめました。

14. その他、感想や伝えたいこと

- ・新人同士でいろいろと話せたのもよかったが、いろいろな施設の先生とも話せてよかった。ありがとうございました。
- ・お忙しいところ、開催していただきありがとうございます。
- ・ありがとうございました
- ・先生方のご尽力により、大変有意義な研修をさせていただきました。有難うございました。

◆ 令和 4 年度 MBTI 研修会

第 1 回 MBTI 研修会

開催日:令和 4 年 10 月 1 日(土)

開催場所:名古屋医療センター

受講生 :11名

第 2 回 MBTI 研修会

開催日:令和 5 年 1 月 28 日(土)

開催場所:金沢医療センター

受講生 :9名

MBTI は人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。外部委託研修として開催し、MBTI の認定ユーザーである国立がん研究センター中央病院の大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていただきます。これらの作業を通して、自分と他者との考え方やものとりえ方が明らかに違うことを体験することができました。

本研修の継続について検討するために、受講生に対して受講前、3 か月後、6 か月後に NHO-PAD から項目を抜粋して作成したアンケートを実施しました。すべての受講生の 6 か月後のアンケート結果の集計が完了しましたので報告いたします。

アンケート結果

アンケート回答数:受講前 18 名、3 か月後 18 名、6 か月後 13 名

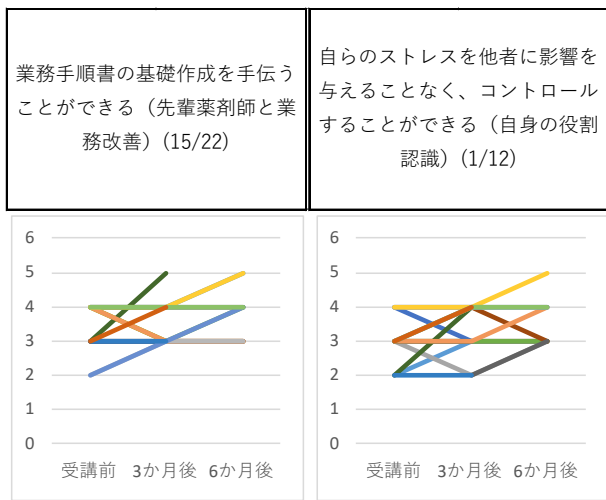
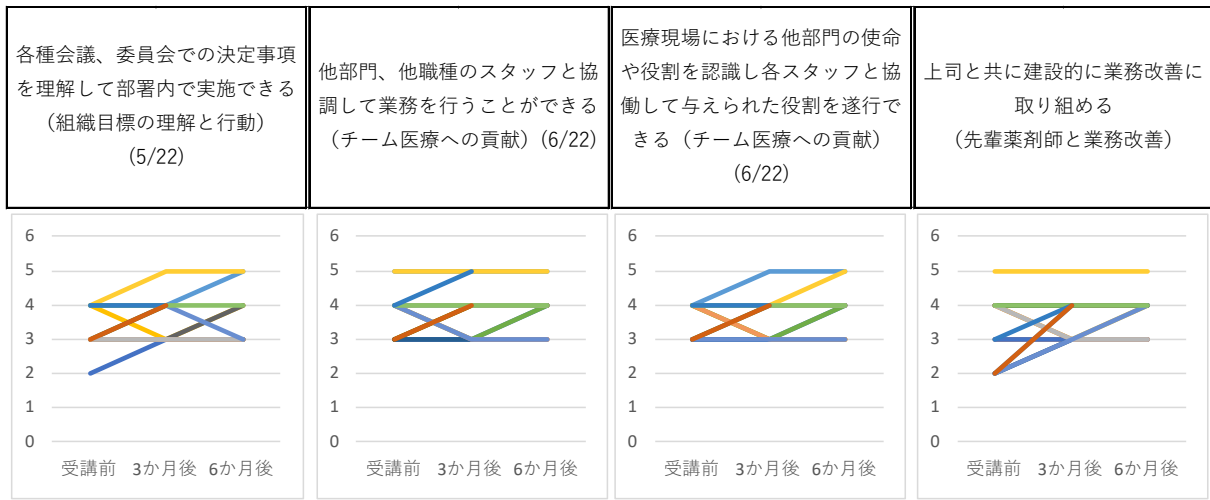
受講前、3 か月後、6 か月後のアンケート結果より平均を比較し、以下の 3 つに分類しました。また、MBTI 研修会の参加の満足度について 3 か月後、6 か月後の変化もご報告します。

「受講前と比較して 3 か月後、6 か月後とも向上していた項目」

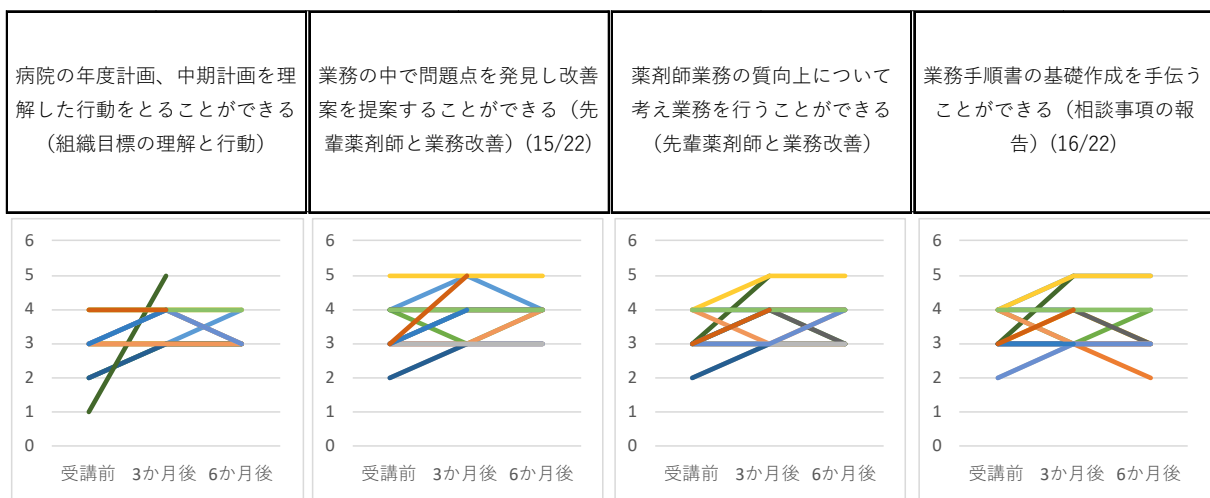
「受講前と比較して 3 か月後に向上し、6 か月後も維持できた項目」

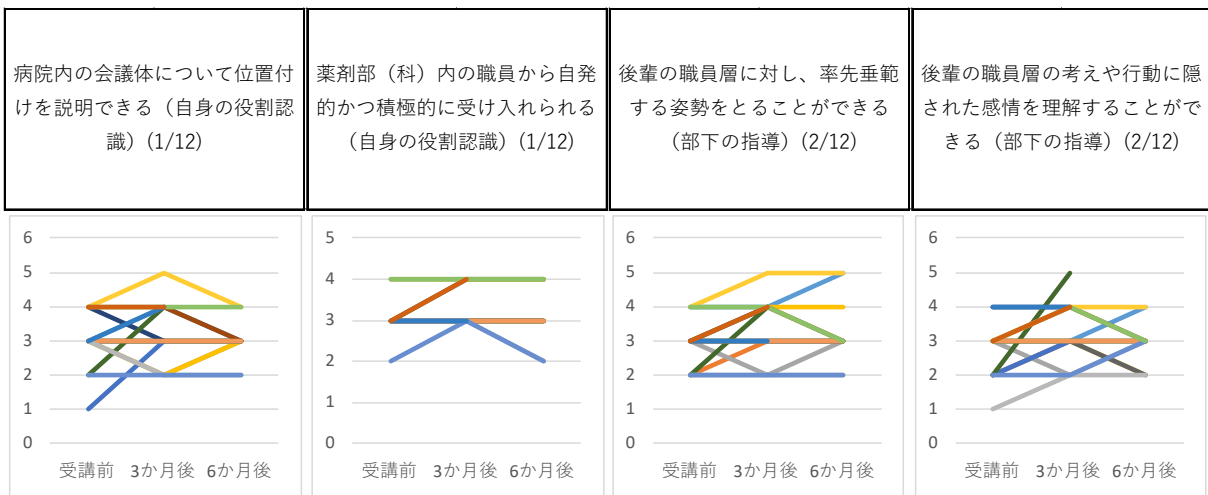
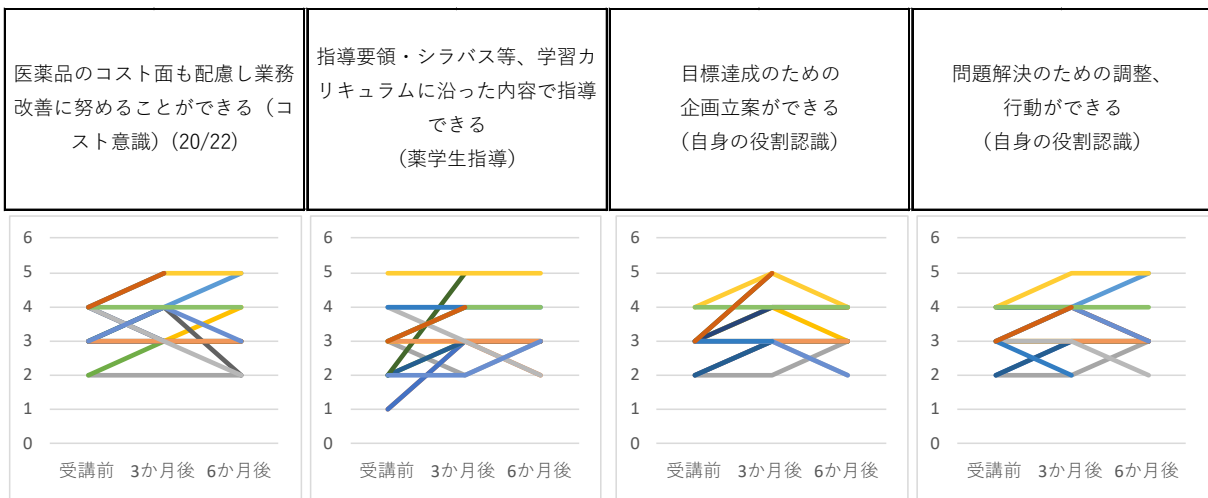
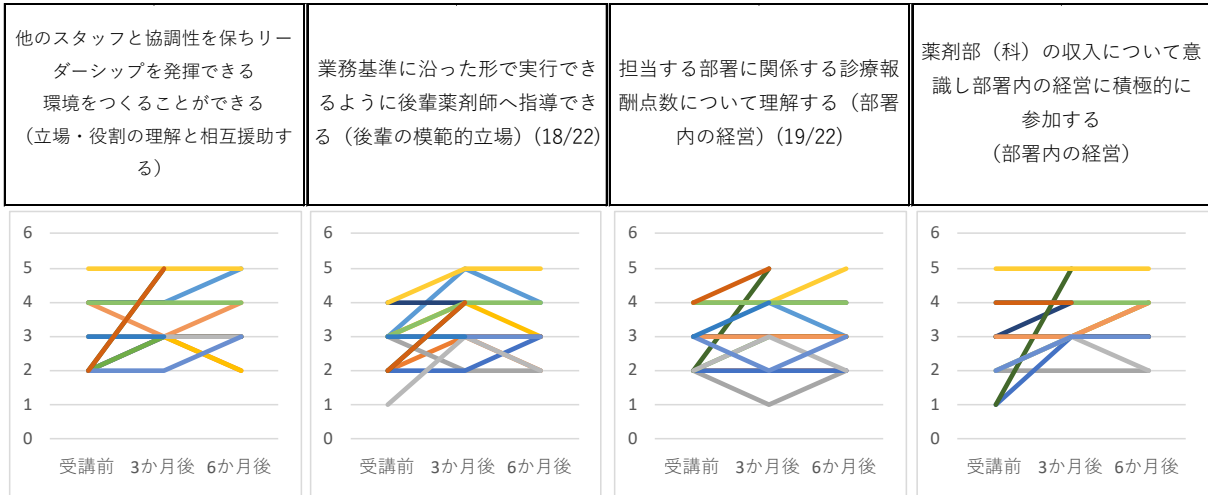
「受講前と比較して 3 ヶ月後は向上したが 6 か月後に受講前より低下していた項目」

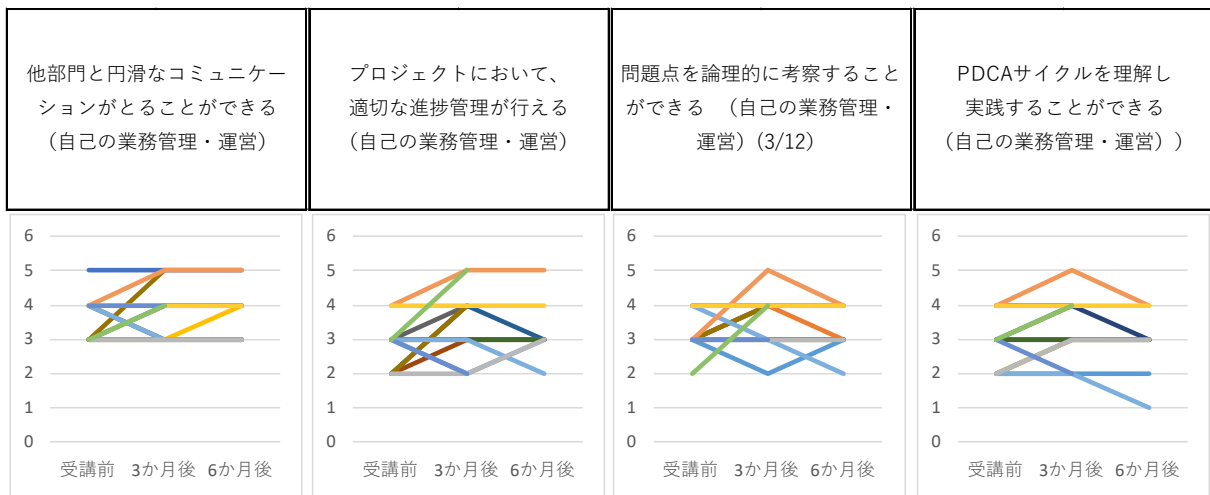
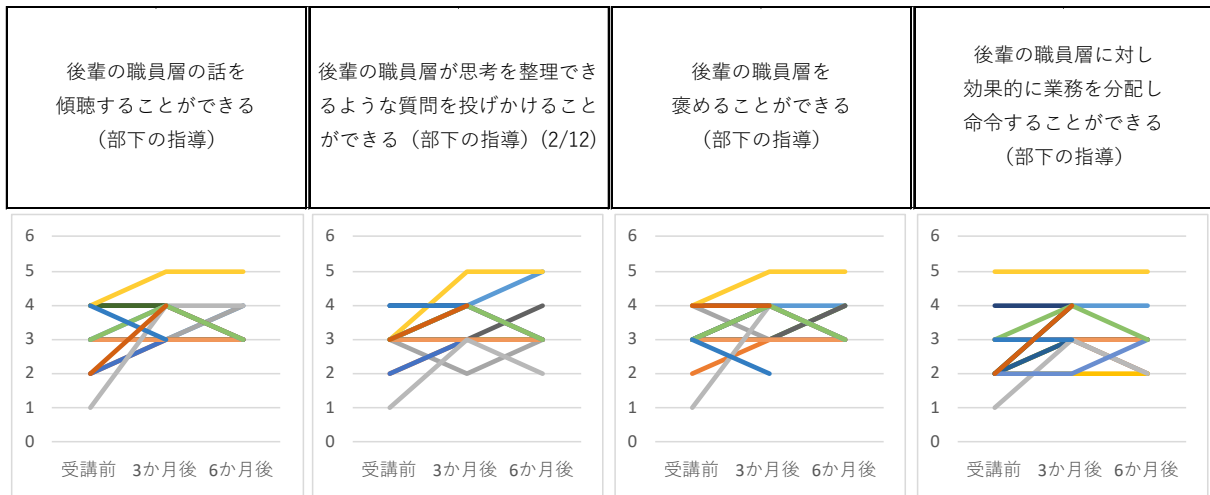
○受講前と比較して3か月後、6か月後とも向上していた項目



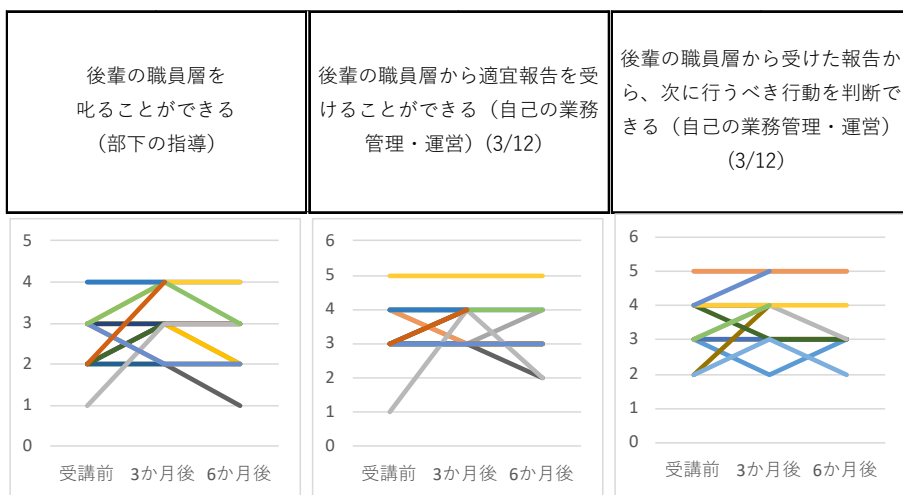
○受講前と比較して3か月後に向上し、6か月後も維持できた項目



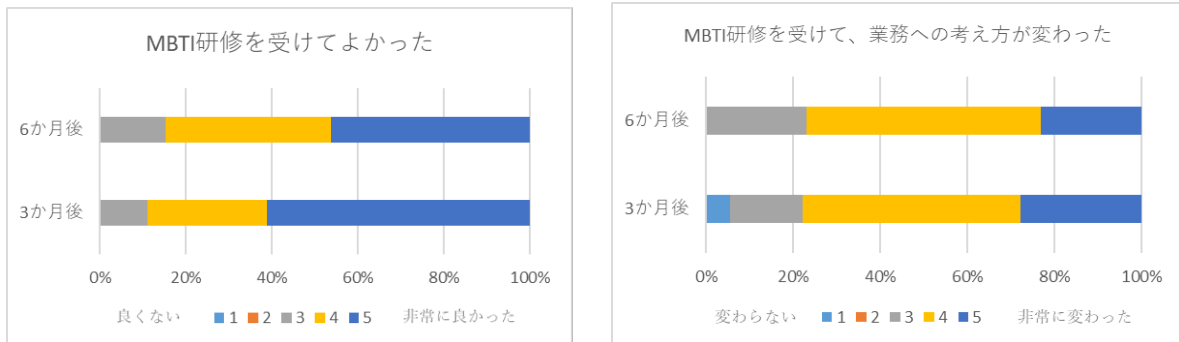




○受講前と比較して3か月後は向上したが6か月後に受講前より低下していた項目



○MBTI 研修会の参加について 3 か月後、6 か月後の変化



アンケートの結果より、MBTI 研修に参加することに対する満足度や考え方の変化などは 6 か月後まで高く維持されていました。また、自分自身のコントロールや他部門との関連業務・コミュニケーションについて6か月後まで向上もしくは維持できている一方で、後輩への指導や報告からの判断などで受講前より低下するという結果でした。MBTI 研修は、前述した通り、自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定していく研修となりますので、他者である後輩への接し方については MBTI 研修だけでは、一時的な向上は認められるものの十分ではなく、教育研修委員会で以前実施していたメンター研修等での補完が必要である可能性が考えられます。これらのことより、今後は MBTI 研修実施から半年経過する頃にメンター研修等の開催を検討していきたいと思えます。

MBTI 研修は受講生の満足度も非常に高い研修であるため、今後も継続し、開催場所・時期や受講対象を検討した上で業務推進委員会とともに検討していきたいと思えます。

業務推進委員会活動報告(令和5年9月)

業務推進委員会委員長
安藤 舞

業務推進委員会は、今年度より委員長、副委員長を交代し、新しい体制で活動して参りました。昨年度に引き続き、研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動しております。今回は2023年4月から2023年9月までの各小委員会の活動を報告させていただきます。

《業務推進委員会コアメンバー》

委員長	安藤 舞(名古屋医療センター)
副委員長	細江 慎吾(豊橋医療センター) 森下 拓哉(金沢医療センター)
小委員会 コアメンバー	青木 まりあ(長寿医療研究センター) 安達 尚哉(富山病院) 磯部 忠良(静岡てんかん神経医療センター) 伊藤 朱里(医王病院) 伊藤 大輔(静岡医療センター) 稲垣 雄一(静岡医療センター) 加藤 雅斗(日本医療研究開発機構) 酒谷 健斗(金沢医療センター) 竹田 あかね(名古屋医療センター) 服部 美波(長良医療センター) 藤居 昂生(金沢医療センター) 山本 正和(金沢医療センター)

◆業務向上小委員会◆

① THP プレアボイド大賞 WG

小委員長:竹田、酒谷

この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

2023年6月の総会にて第5回 THP プレアボイド大賞の結果を報告させていただきました。

第1回から第5回までの取り組みについて総合医学会で発表を予定しています。

また、2023年11月頃より第6回 THP プレアボイド大賞準備のため各施設のプレアボイドを収集予定です。

◆業務改善小委員会◆

① 働き方改善 WG

小委員長:磯部、山本、加藤

このWGでは、家庭を持った女性薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容をTHP会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。

家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。

2023年5月に「NHOママ薬剤師(Pharmama)に聞く Vol.7」を発刊いたしました。

2023年12月よりVol.8の作成開始を予定しています。

Vol.1～7については、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

また、THP会員に向けて行ったアンケートの結果を総合医学会で発表予定です。

② QC活動 多施設共同QC

担当:伊藤朱

業務推進委員会ではQC活動の推進も行っており、定期的な研修会を行っていましたが、今年度はQCを体験し自らQCを実施しようと思えるきっかけを作るため、また他施設の仲間と知り合うために、一つのQCテーマを多施設で行うことを企画しました。

2022年10月よりQCチームの参加募集を行い、4施設で活動を開始し、各施設で医薬品の使用期限管理をどのように行っているか現状把握を行うために、THP全施設にアンケートを行いました。

アンケートの結果を総合医学会で発表予定です。

多施設QC参加施設:医王病院、金沢医療センター、長良医療センター、名古屋医療センター

③ MBTI研修会(業務推進委員会との共催)

小委員長:安藤、伊藤大、稲垣

MBTIは人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。昨年度は外部委託研修として開催し、MBTIの認定ユーザーである国立がん研究センター中央病院の大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていきます。これらの作業を通して、自分と他者との考え方やものとりえ方が明らかに違うことを体験することができ、非常に興味深い発見がありました。現在は静岡県での第三回MBTI研修会開催に向け準備中です。

◆業務共有小委員会◆

① 薬薬連携 WG

小委員長:青木、伊藤大

昨年度は、がん分野の連携充実加算をテーマに、各施設の取り組み内容について情報収集を行い、HPに掲載させていただきました。現在は今後の活動内容について検討中です。

THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

※名古屋医療センター、三重中央医療センター、静岡医療センター、豊橋医療センター、長良医療センター、金沢医療センター の6施設にご協力いただきました。ありがとうございました。

② チーム医療

小委員長:服部、山本

2023年度のチーム医療担当者名簿の作成に向けて準備中です。

以上、委員会報告となります。

業務推進委員会では、少しでもTHP会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときにHPをご覧ください、会員の皆様の業務にお役立させていただきますようお願いいたします。

2023年10月3日

令和5年度前期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長 山本高範

1. 令和5年度 学術小委員会活動実績 多施設共同研究

研究課題（継続中）

- 1) 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疼痛緩和治療に関する現状調査
金沢大学 石田奈津子
(参加施設：医王病院、天竜病院、静岡てんかん神経医療センター)
- 2) 「薬物相互作用によって誘発されるポリファーマシー」
静岡てんかん・神経医療センター 山本吉章
- 3) 「左室駆出率が低下した心不全における抗不整脈薬の薬物動態解析」
三重中央医療センター 朝居祐貴
- 4) 「NCDAデータベース研究 TDMが必要な薬物の体内動態に影響を与える要因に関する網羅的解析」
三重中央医療センター 朝居祐貴
- 5) 「サクビトリルバルサルタンとカルペリチド併用が心不全患者の尿量に及ぼす影響の解明」
三重中央医療センター 築川樹
- 6) 「内因性バイオマーカーを利用したリファンピシンおよびクラリスロマイシン同時併用下におけるCYP3A4活性の測定」
静岡てんかん・神経医療センター 山本吉章

2. 令和5年度会員研究実績（2023年4月～2023年9月）

国内外学術誌掲載（査読あり）

- 1) 朝居祐貴 「Machine Learning-Based Prediction of Digoxin Toxicity in Heart Failure: A Multicenter Retrospective Study」 Biol Pharm Bull. 2023; 46: 614-620
- 2) 大井勇秀 「Risk evaluation of ampicillin/sulbactam-induced liver injury based on albumin-bilirubin score」 Journal of Infection and Chemotherapy. 2023: S1341-321X, 00140-X.
- 3) 山本吉章 「Effects of low-dose titration on the tolerability and safety of perampanel」 Epilepsy Behav. 2023; 143: 109213.
- 4) 朝居祐貴 「Impact of antimicrobial stewardship program-driven educational intervention for vancomycin loading dose on mortality」 Journal of Infection and Chemotherapy. 2023: S1341-321X, 00165-4.
- 5) 山本吉章 「Incidence trends and risk factors for hyponatremia in epilepsy patients: A large-scale real-world data study」 Heliyon. 2023; 9: e18721.

- 6) 朝居祐貴「三重県薬剤師会における研究活動推進チームが主催した『研究デザインに関する研修会』の有用性評価」 日本薬剤師会雑誌. 2023; 75: 815-819.
- 7) 間瀬広樹「院外処方箋における疑義照会事前合意 プロトコルの利用状況と疑義照会件数への影響」 IRYO. 2023, 77: 257-261.

3. 令和5年度 学術研究委員会コアメンバー会議

日時 2023年4月4日（火）18:00～19:00

開催方法 Zoom 会議

協議・報告事項

- 1) 学術研究委員会の昨年度の統括と次年度以降の目標
学術主催の研究会で若手薬剤師の発表数が増加した。その一方で医療薬学会での発表者数が年々減少しており、その対策が急務である。また、医療薬学会の専門薬剤師数と研修施設数も数年間変化ない。THP 会員が入職後より研究活動に取り組める環境を作り上げるため、本年度より学術主催の研修会を再開する。長期的には論文投稿まで完遂できる研究リーダーを育成し、専門薬剤師および研修施設の増加を目標とする。
- 2) 論文賞
令和4年度の論文数は16報であった（前年度比+4報）。複数査読の学術誌にアクセプトされた7名の先生（朝居祐貴先生、大井勇秀先生、鈴木亮平先生、長谷川章先生、早川裕二先生、平島学先生、山本高範）に論文賞（ギフトカード5000円）を贈呈する。なお、山本吉章先生（選定責任者）は対象外とする。
- 3) 研究会、勉強会について 令和5年度も研究討論会と研究発表会を統合して開催する。昨年度は、研究発表会のエントリー数が少なかったため、各施設1演題はエントリーできるように事前に準備をすすめる。本会を契機に次の全国学会で発表できるよう目標を設計する。Web 論文抄読会は、令和4年度と同じ頻度で開催する（主担当：座光寺伸幸先生）。なお、アンケートの結果を考慮して、開催時期、日程を検討する。前述のとおり、令和5年度より若手薬剤師を対象とした勉強会を復活する。講師は現コアメンバー、学術委員を組み合わせ日常臨床の疑問から、研究計画の立案、解析、結果の考察について解説する。今年度はハイブリッド開催を予定する。
- 4) 令和5年度小委員会活動計画
今年度も共同研究を継続する。昨年の研究会で採択された共同研究および新規研究課題を実施する。
- 5) 実施体制
令和5年度より委員長を山本高範に交代する。山本吉章先生は、学術委員として競争研究費の獲得・サポート、共同研究の立案を行う。
- 6) 令和5年度予算案前年同様、論文賞、研究発表会の経費を計上する。論文抄読会の題材を無料ジャーナルのみで行うことは難しいため、有料ジャーナルのDL費用を計上する。委員会の経費削減に努めるため、今年度は薬剤部科長協議会の競争研究費獲得を目指す。また、学術研修会再開に伴い、開催経費を新たに計上する。

4. 令和5年度 前期活動報告

1) 第5回 THP 合同症例カンファレンス

日時：2023年7月11日（火） 17時30分～19時00分

場所：Zoomによる口頭発表

座長： 名古屋医療センター 近藤芳皓

1. 「肥満患者におけるバンコマイシンの投与量設計への介入」
金沢医療センター 薬剤部 吉田 日向子
2. 「短腸症候群にテデュグルチドを使用した1例」
石川病院 薬剤科 東 拓馬
3. 「血糖コントロールに難渋した妊娠糖尿病患者に間歇スキャン式持続血糖測定器を導入した一症例」
三重中央医療センター 薬剤部 春田 桃歩
4. 「NST介入によるポリファーマシー改善症例」
豊橋医療センター 薬剤部 中島 維菜

編集後記

Vol.30を発行します。

今回、施設紹介を掲載させて頂いた三重病院と同様に当院でも重症心身障害者病床を備えています。先日、ハロウィンシーズンということもあり紙で作った可愛いカボチャの帽子を被った数人の患児が看護師に付き添われて院内を散歩していました。幹部会議中の会議室にも「トリック・オア・トリート！！」と登場しましたがよく分からない状況だったようで恥ずかしがっている様子にみんなで和んでいました。普段でも看護師と一緒に薬剤部まで薬を取りに来てくれる患児がおり挨拶や声掛けをしたときの受け答えに癒やされるばかりです。

東海北陸国立病院薬剤師会会誌 第 30 号 令和 5 年 10 月発行

発行元 東海北陸国立病院薬剤師会

(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター薬剤科内)

発行人 会長 竹内 正紀 (静岡医療センター)

編集 広報担当理事 三井 陽二 (天竜病院)

